

●オオムラサキ観察会 7日 この日も引き続き雨が降り続けました。定刻の10時には、桜谷先生が到着、金田さんや大村さん、深田さんや播川さんも来られて、賑やかになりました。本日のスケジュールを確認し、午前中は里山の会事務所で来年3月に神戸市で行われる日本生態学会でのポスター発表の部で中西康太君が出展する、その確認と内容と資料の収集に取り組むことを参加者全員が確認、積極的に協力することを決定しました。桜谷先生からは里山農園の発端や、これまでの取組、改善復旧の取組と施設の充実をどのように進めてきたのか、そしてその目的は何なのかを明確にすることの大切さを強調されました。教育棟の充実の特筆する内容であり観察台も比類を見ない施設であります。また自然環境は優れ、多くの生き物がおり、シイタケ栽培や朝市で市民への提供にも取組、その輪が随分と大きくなって、住民からも期待されているという成果も付け加えるべきである。ここでも資料をしっかりと整備しておく必要があるとされました。

午後には近畿大学農学部を訪ねて、桜谷先生からキャンパスを案内いただいた。また前潟先生もガイドに加わっていただき、様々なご説明をいただきました。カスミサンショウウオの生育施設の見学も行い、メダカの研究者の新井先生の研究成果の説明に大変興味を持ちました。先生には9月の里山講演会に是非ご出席いただき、お話を聞かせていただくように強くお願いしました。

7月ともなると登校してくる学生さんたちも自主的に目的をもって通学されているようで、自習室で熱心に学習されている姿に心を打たれました。真剣さが伝わってきました。素晴らしい学校という印象が強く残りました。

●西日本記録的豪雨 死者多数 行方不明多数 記録的豪雨広域に被害続出 太平洋高気圧の大きな張り出しで、梅雨前線が北に押し上げられて、6月末に梅雨明けが発表された直後、台風の北上があり、そこへ南方から湿った空気が流れ込み、広範囲に記録的豪雨が集中し、大きな被害が発生しました。被災者の皆さんは、住宅を失い肉親を失い、生活の再建をどうされるのか、大変心配です。自然災害というけれど、大変なことです。私たちだったらどうするか、どうなるのか、途方にくれてしまいます。心が痛む思いです。

里山農園1号地の排水溝に大きな被害が発生しました。ここは山間の農地で、田んぼなので、山の滴りしづく雨水をよりどころにしてきたところでした。里山農園は何よりも排水溝の管理が一番大切です。畑地にするために第一番に排水溝を掘りました。1号地から2号地に流れ落ちる場所に、これまで以上の水量が流れ込み、溝の砂が激しく流され、小さな滝の状態になり、滝壺的な状況に一変したのです。このままで放置すれば、次の雨でさらに土砂が流れ、畑の姿を失ってしまう危険が予想されます。早急に土砂流失の防止策を講じなければなりません。幸いに土嚢袋に詰め込んだ物が200袋ほどあるので、滝壺に投げ込んで現状復帰を行い、防止対策を実施しなければなりません。里山農園にお越しの折には1袋の土嚢でも滝壺に投げ込んでいただきたいものです。次の雨の前に完成させなければなりません。よろしくお願いします。

●朝市 8日 5店舗が出店 久しぶりに朝市に参加しました。店開きというルールでしたが、近頃は、御老人客の増加と夜明けが早いので7時30分頃には、大勢の集まりになっています。私が顔を出した頃には、お客さんは引き上げておられ、店の余韻が少し残っている程度でした。こんなに朝が早いと朝取り野菜というわけにはいかず、随分と早くからの仕事になるようです。それでも大勢の皆さんが集まってくれるということはありがたいことです。売り手と買い手が顔見知りになって、すっかり友人になり、お互いに健康を気遣いあう関係になって、仲良くなっています。こうしたいい関係が大事ですね。この日の出店は5店舗でした。

●初夏の植物観察会 大雨で順延 新しい会員さんもお加入 木津川の草花で最も大きい群落地がこの日の目的地でした。里山の会がここで絶滅危惧種を発見したのは、かれこれ20年前になります。当時はマウンテンバイクの練習場として、ものすごく荒れた状態になっていました。当時の建設省木津川出張所に出かけて、貴重植物の生育地の保護柵の設置を要望しました。その結果マウンテンバイクが来なくなり、今日の大群落になったのです。この柵作りが、なされていなかったら木津川最大の群落は守られなかったと思います。

大雨が止んだので、順延してきた木津川花散策を7月9日(月)に行いました。毎年恒例の7月木津川飯岡地区の植物観察会です。当日は、お天気に恵まれ、12名もの参加者で、にぎやかにカワラナデシコやカワライサイコ、カワラマツバ、オニユリ、その他たくさんの花が見られました。皆さん植物好きの方ばかりで、楽しんでおられました。今回入会してくださった方や、入会したいという希望の方もあり、うれしい取り組みになりました。木津川増水の影響を懸念していましたが、問題はありませんでした。さすがに強い雨に打たれた影響でしょうか、花の数は昨年に比べて少なかったと思います。当日の確認植物数は60種でした。

●「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」案内チラシを山城教育局管内の全小学校への配布 各市町村教育委員会に35,000枚届けました。里山の会と河川レンジャーが共に山城を流れる木津川で「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」を行ってきました。里山の会はスタッフと諸準備、そして安全確保の要員を受け持ち、河川レンジャーは魚取りや水質検査の指導を分け合って取り組みを成功させてきました。本格的に取り組んで14回目になります。流入支川での魚とりに終わっていましたが、近頃はお父さんもお母さんも一緒に川に入り、「川流れ」を手伝ってもらいます。ライフジャケットの装着を義務付けていますので、流れに乗って下るという経験はなかなかできないもので、最初はおおかなびっくりで尻込みをしても慣れるにしたがって、生き生きと笑顔になって何回も何回も挑戦します。素晴らしい経験になり、魚とりに加えて忘れられない思い出になると思います。

里山の会ではスタッフの皆さんが高齢となって、安全確保に少し心配が見られます。熱中症対策にも気を使わなくてはなりませんので、元気で馬力のある若手の皆さんで、この取り組みを継続できるよう世話役を募集しています。奮って名乗り出てほしいと思います。国土交通省淀川事務所の河川レンジャーと力を合わせてほしいと思います。

●京の七夕笹竹5m:4本の提供は御園橋801商店街へ 18日(水)午前中の納品を希望 切り出しは8時に行います。事務局会議は9時30分から開始で、納品出発は10時30分の予定で到着まで1時間30分と考えています。鴨川のかなり上流です。

●14日 第4回夜の生き物調査会 4組募集 集合16時 普賢寺小学校前 各新聞社に案内チラシを届けました。京都新聞社からやましろ版の催し案内欄に掲載すると連絡が来ました。どうやら雨が止んだら猛烈な暑さが連日続くという予報です。里山農園の教育棟は屋根が高いところは5mもあって、十分に暑さをしのげますし、風も良く通ります。去年は手作りの「蚊帳」も作って楽しいお泊りもできました。もちろんミストの準備も行いました。夏のこの時期、身近な山でのお泊りもいい経験になります。集合は16時に開始しますが、お帰りの時間は、ご自分で決めてください。希望されると夜通し観察も可能です。どんな生物が集まってくるのでしょうか、楽しみです。今年の解説は昆虫部の金田さんが桜谷先生に代わって担当いただきます。

●「親子で遊ぼう学ぼう」の参加募集が始まる 7月21日(土)は宇治市在住者の皆さん対象 世話役としての申込み者を最優先で受付を行います。間もなく夏休みになります。里山の会では恒例の取組みを計画しました。山の取組みとして14日の生き物調べに引き続き、川での取組みとして「魚とり」を開催します。7月21日は宇治市域を対象に開催。水難事故が毎年のように起きています。その対策として、ライフジャケットの装着が必要です。万一の場合に備えて、傷害保険と管理者保険に加入し、参加者名簿の作成を整備するために「往復はがき」での申し込みをお願いしています。保護者同伴も必須条件としています。参加されるどのお子さんも大切にして、事故防止に進んでご協力をお願いいたします。夏休みの楽しい取り組みに

●13人の洞窟探検のコーチと少年 無事に救出 このニュースを聞いて非常に驚きました。世界中から数千人のボランティアが駆けつけ、奇跡の生還救出が成功したことに、大きな明るいニュースにほっとしました。テレビの報道では仏教国であり、弱い人々を助けるのは、いつだれでもそのような立場になるかもしれないから 助けるのは当たり前という考えがタイの国の人々に根付いていると伝えられました。よかったですね。